



E コマンド

この章では、E で始まる Cisco NX-OS Security コマンドについて説明します。

enable Cert-DN-match

LDAP ユーザのユーザ プロファイルに、ログインが認可されているものとして、ユーザ証明書のサブジェクト DN (subject-DN) が一覧表示されている場合にのみ、そのユーザがログインできるようにするには、**enable Cert-DN-match** コマンドを使用します。この設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

enable Cert-DN-match

no enable Cert-DN-match

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

LDAP サーバ グループ コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、LDAP ユーザのユーザ プロファイルに、ログインが認可されているものとして、ユーザ証明書のサブジェクト DN が一覧表示されている場合にのみ、そのユーザがログインできるようにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# aaa group server ldap LDAPServer1
switch(config-ldap)# server 10.10.2.2
switch(config-ldap)# enable Cert-DN-match
switch(config-ldap)
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaa group server ldap	LDAP サーバ グループを作成し、そのグループの LDAP サーバ グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
enable user-server-group	LDAP サーバ グループのグループ検証をイネーブルにします。
server	LDAP サーバ グループのメンバーとして LDAP サーバを設定します。
show ldap-server groups	LDAP サーバ グループ設定を表示します。

enable level

ユーザがシークレット パスワードの入力を求められた後に、高い権限レベルに移行できるようにするには、**enable level** コマンドを使用します。

enable level

構文の説明

level ユーザがログインする必要がある権限レベル。使用可能なレベルは 15 だけです。

デフォルト

権限レベル 15

コマンド モード

EXEC コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**feature privilege** コマンドを使用して、TACACS+ サーバでのコマンド認可にロールの累積権限をイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、ユーザがシークレット パスワードの入力を求められた後に、高い権限レベルに移行できるようにする例を示します。

```
switch# enable 15
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable secret priv-lvl	特定の権限レベルのシークレット パスワードをイネーブルにします。
feature privilege	TACACS+ サーバでのコマンド認可に対するロールの累積権限をイネーブルにします。
show privilege	現在の権限レベル、ユーザ名、および累積権限のサポートのステータスを表示します。
username user-id priv-lvl	ユーザが認可に権限レベルを使用できるようにします。

enable secret

特定の権限レベルのシークレット パスワードをイネーブルにするには、**enable secret** コマンドを使用します。パスワードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

enable secret [0 | 5] *password* [*priv-lvl priv-lvl* | **all**]

no enable secret [0 | 5] *password* [*priv-lvl priv-lvl* | **all**]

構文の説明

0	(任意) パスワードがクリア テキストであること指定します。
5	(任意) パスワードが暗号化形式であること指定します。
<i>password</i>	ユーザ権限エスカレーション用のパスワード。最大で 64 文字の英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。
<i>priv-lvl priv-lvl</i>	(任意) シークレットが属する権限レベル。範囲は 1 ~ 15 です。
all	すべての権限レベルのシークレットを追加または削除します。

デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**feature privilege** コマンドを使用して、TACACS+ サーバでのコマンド認可にロールの累積権限をイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、特定の権限レベルのシークレット パスワードをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature privilege
switch(config)# enable secret 5 def456 priv-lvl 15
switch(config)# username user2 priv-lvl 15
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable level	ユーザがシークレット パスワードの入力を求められた後に、高い権限レベルに移行できるようにします。
feature privilege	TACACS+ サーバでのコマンド認可に対するロールの累積権限をイネーブルにします。

コマンド	説明
show privilege	現在の権限レベル、ユーザ名、および累積権限のサポートのステータスを表示します。
username <i>user-id</i> priv-lvl	ユーザが認可に権限レベルを使用できるようにします。

enable user-server-group

LDAP サーバ グループのグループ検証をイネーブルにするには、**enable user-server-group** コマンドを使用します。グループ検証をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

enable user-server-group

no enable user-server-group

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

ディセーブル

コマンドモード

LDAP サーバ グループ コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、LDAP サーバで LDAP サーバ グループ名を設定する必要があります。ユーザは、LDAP サーバに、この設定済みのグループのメンバーとして、ユーザ名が表示されている場合にのみ、公開鍵認証によってログインできます。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、LDAP サーバ グループのグループ検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# aaa group server ldap LDAPServer1
switch(config-ldap)# server 10.10.2.2
switch(config-ldap)# enable user-server-group
switch(config-ldap)
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaa group server ldap	LDAP サーバ グループを作成し、そのグループの LDAP サーバ グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
enable Cert-DN-match	LDAP ユーザのユーザ プロファイルに、ログインが認可されているものとして、ユーザ証明書のサブジェクト DN が一覧表示されている場合にのみ、そのユーザがログインできるようにします。
server	LDAP サーバ グループのメンバーとして LDAP サーバを設定します。
show ldap-server groups	LDAP サーバ グループ設定を表示します。

enrollment terminal

スイッチ コンソールを介した、証明書登録の手作業でのカット アンド ペーストをするには、**enrollment terminal** コマンドを使用します。デフォルトの証明書登録処理に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

enrollment terminal

no enrollment terminal

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの方法は手作業でのカット アンド ペーストで、これは、Cisco NX-OS ソフトウェアがサポートする唯一の登録方法です。

コマンド モード

トラストポイントの設定

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次の例では、スイッチ コンソールを使用してトラストポイント登録を設定する方法を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# crypto ca trustpoint admin-ca  
switch(config-trustpoint)# enrollment terminal
```

次の例では、スイッチ コンソールを使用してトラストポイント登録を廃棄する方法を示します。

```
switch(config)# crypto ca trustpoint admin-ca  
switch(config-trustpoint)# no enrollment terminal
```

関連コマンド

コマンド	説明
crypto ca authenticate	認証局の証明書を認証します。

eou allow clientless

クライアントレス エンドポイント デバイスの Extensible Authentication Protocol over User Datagram Protocol (EAPoUDP) ポスチャ検証をイネーブルにするには、**eou allow clientless** コマンドを使用します。クライアントレス エンドポイント デバイスのポスチャ検証をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

eou allow clientless

no eou allow clientless

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。
このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、クライアントレス エンドポイント デバイスの EAPoUDP ポスチャ検証を許可する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou allow clientless
```

次に、クライアントレス エンドポイント デバイスの EAPoUDP ポスチャ検証が行われないようにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou allow clientless
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature eou	EAPoUDP をイネーブルにします。
show eou	EAPoUDP 情報を表示します。

eou default

EAPoUDP のグローバルまたはインターフェイスの設定値をデフォルトに戻すには、**eou default** コマンドを使用します。

eou default

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション
インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。
このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、グローバル EAPoUDP 設定をデフォルトに変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou default
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP 設定をデフォルトに変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou default
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature eou	EAPoUDP をイネーブルにします。
show eou	EAPoUDP 情報を表示します。

eou initialize

EAPoUDP セッションを初期化するには、**eou initialize** コマンドを使用します。

```
eou initialize {all | authentication {clientless | eap | static} | interface ethernet slot/port |
ip-address ipv4-address | mac-address mac-address | posturetoken name}
```

構文の説明

all	すべての EAPoUDP セッションを初期化します。
authentication	特定の認証タイプの EAPoUDP セッションを初期化します。
clientless	クライアントレス ポスチャ検証を使用して認証されたセッションを指定します。
eap	EAPoUDP を使用して認証されたセッションを指定します。
static	静的に設定された例外リストを使用して認証するセッションを指定します。
interface ethernet <i>slot/port</i>	特定のインターフェイスの EAPoUDP セッションを初期化します。
ip-address <i>ipv4-address</i>	特定の IPv4 アドレスの EAPoUDP セッションを初期化します。
mac-address <i>mac-address</i>	特定の MAC アドレスの EAPoUDP セッションを初期化します。
posturetoken <i>name</i>	特定のポスチャ トークンの EAPoUDP セッションを初期化します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。
このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、すべての EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize all
```

次に、静的に認証された EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize authentication static
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize interface ethernet 1/1
```

次に、IP アドレスの EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize ip-address 10.10.1.1
```

次に、MAC アドレスのすべての EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize mac-address 0019.076c.dac4
```

次に、ポストチャ トークンのすべての EAPoUDP セッションを初期化する例を示します。

```
switch# eou initialize posturetoken healthy
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>feature eou</code>	EAPoUDP をイネーブルにします。
<code>show eou</code>	EAPoUDP 情報を表示します。

eou logging

EAPoUDP ロギングをイネーブルにするには、**eou logging** コマンドを使用します。EAPoUDP ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

eou logging

no eou logging

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

グローバル コンフィギュレーション：ディセーブル

インターフェイス コンフィギュレーション：グローバル コンフィギュレーション設定

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイス上の EAPoUDP ロギングの設定はグローバル設定を上書きします。

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、グローバル EAPoUDP ロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou logging
```

次に、グローバル EAPoUDP ロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou logging
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP ロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou logging
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP ログングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t  
switch(config)# interface ethernet 1/1  
switch(config-if)# no eou logging
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature eou	EAPoUDP をイネーブルにします。
show eou	EAPoUDP 情報を表示します。

eou max-retry

EAPoUDP の最大試行回数をグローバルに、またはインターフェイス単位で設定するには、**eou max-retry** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

eou max-retry count

no eou max-retry

構文の説明

count 最大リトライ試行回数。有効範囲は 1 ～ 3 回です。

デフォルト

グローバル コンフィギュレーション : 3

インターフェイス コンフィギュレーション : グローバル コンフィギュレーション値

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスの最大リトライ回数は、グローバル設定値より優先されます。EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、EAPoUDP のグローバル最大リトライ試行回数を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou max-retry 2
```

次に、EAPoUDP のグローバル最大リトライ試行回数の設定をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou max-retry
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP 最大リトライ試行回数を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config) interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou max-retry 3
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP 最大リトライ試行回数の設定をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# config t  
switch(config) interface ethernet 1/1  
switch(config-if) # no eou max-retry
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature eou	EAPoUDP をイネーブルにします。
show eou	EAPoUDP 情報を表示します。

eou port

EAPoUDP の User Datagram Protocol (UDP; ユーザ データグラム プロトコル) ポート番号を設定するには、**eou port** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

eou port *udp-port*

no eou port

構文の説明

udp-port UDP ポート番号。範囲は 1 ～ 65535 です。

デフォルト

21862 (0x55566)

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、EAPoUDP の UDP ポート番号を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou port 21856
```

次に、EAPoUDP の UDP ポート番号をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou port
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature eou	EAPoUDP をイネーブルにします。
show eou	EAPoUDP 情報を表示します。

eou ratelimit

EAPoUDP ポスチャ検証の同時セッション数を設定するには、**eou ratelimit** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

eou ratelimit sessions

no eou ratelimit

構文の説明	<i>sessions</i> EAPoUDP ポスチャ検証の最大同時セッション数。範囲は 0 ～ 200 です。
--------------	---

デフォルト	グローバル コンフィギュレーション : 20 インターフェイス コンフィギュレーション : グローバル コンフィギュレーション設定
--------------	--

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション インターフェイス コンフィギュレーション
-----------------	---

サポートされるユーザロール	network-admin vdc-admin
----------------------	----------------------------

コマンド履歴	リリース 変更内容
	4.0(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	EAPoUDP レート制限をゼロ (0) に設定すると、ポスチャ検証の同時セッションは許可されません。インターフェイスの EAPoUDP レート制限設定は、グローバル EAPoUDP レート制限設定を上書きします。
-------------------	---

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

例	次に、EAPoUDP ポスチャ検証のグローバル最大同時セッション数を変更する例を示します。
----------	---

```
switch# config t
switch(config)# eou ratelimit 30
```

次に、EAPoUDP ポスチャ検証のグローバル最大同時セッション数をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou ratelimit
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP ポスチャ検証の最大同時セッション数を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou ratelimit 30
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP ポスチャ検証の最大同時セッション数をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# no eou ratelimit
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature eou	EAPoUDP をイネーブルにします。
show eou	EAPoUDP 情報を表示します。

eou revalidate (EXEC)

EAPoUDP セッションを再検証するには、**eou revalidate** コマンドを使用します。

```
eou revalidate {all | authentication {clientless | eap | static} | interface ethernet slot/port
| ip-address ipv4-address | mac-address mac-address | posturement name}
```

構文の説明

all	すべての EAPoUDP セッションを再検証します。
authentication	特定の認証タイプの EAPoUDP セッションを再検証します。
clientless	クライアントレス ポスチャ検証を使用して認証されたセッションを指定します。
eap	EAPoUDP を使用して認証されたセッションを指定します。
static	静的に設定された例外リストを使用して認証するセッションを指定します。
interface ethernet slot/port	特定のインターフェイスの EAPoUDP セッションを再検証します。
ip-address ipv4-address	特定の IPv4 アドレスの EAPoUDP セッションを再検証します。
mac-address mac-address	特定の MAC アドレスの EAPoUDP セッションを再検証します。
posturement name	特定のポスチャ トークンの EAPoUDP セッションを再検証します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意のコマンドモード



(注)

Cisco NX-OS ソフトウェアは、グローバル コンフィギュレーション モードの **eou revalidate** コマンドをサポートします。グローバル コンフィギュレーション モードで EXEC レベルの **eou revalidate** コマンドを使用するには、必須キーワードを指定します。

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。
このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate all
```

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate authentication static
```

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate interface ethernet 1/1
```

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate ip-address 10.10.1.1
```

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate mac-address 0019.076c.dac4
```

次に、すべての EAPoUDP セッションを再検証する例を示します。

```
switch# eou revalidate posturetoken healthy
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature eou	EAPoUDP をイネーブルにします。
show eou	EAPoUDP 情報を表示します。

eou revalidate (グローバル コンフィギュレーションおよびインターフェイス コンフィギュレーション)

EAPoUDP セッションの定期的な自動再検証をグローバルに、または特定のインターフェイスでイネーブルにするには、**eou revalidate** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

eou revalidate

no eou revalidate

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

グローバル コンフィギュレーション : イネーブル

インターフェイス コンフィギュレーション : グローバル コンフィギュレーション値

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスの自動再検証の設定は、グローバル自動再検証の設定を上書きします。



(注)

Cisco NX-OS ソフトウェアは、EXEC コンフィギュレーション モードの **eou revalidate** コマンドをサポートします。グローバル コンフィギュレーション モードで EXEC レベルの **eou revalidate** コマンドを使用するには、必須キーワードを指定します。

EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、EAPoUDP セッションのグローバル自動再検証をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou revalidate
```

次に、EAPoUDP セッションのグローバル自動再検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou revalidate
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP セッションの自動再検証をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no eou revalidate
```

次に、インターフェイスの EAPoUDP セッションの自動再検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou revalidate
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature eou	EAPoUDP をイネーブルにします。
eou timeout	EAPoUDP の定期的な自動再検証のタイムアウト間隔を設定します。
show eou	EAPoUDP 情報を表示します。

eou timeout

EAPoUDP グローバル タイマーまたはインターフェイスの EAPoUDP タイマーのタイムアウト間隔を設定するには、**eou timeout** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

eou timeout {*aaa seconds* | **hold-period** *seconds* | **retransmit** *seconds* | **revalidation** *seconds* | **status-query** *seconds*}

no eou timeout {*aaa* | **hold-period** | **retransmit** | **revalidation** | **status-query**}

構文の説明

aaa seconds	AAA タイムアウト間隔を指定します。有効範囲は 0 ～ 60 秒です。 (注) AAA タイムアウト間隔をゼロ (0) に設定すると、AAA タイマーがディセーブルになります。
hold-period seconds	ホールド タイムアウト間隔を指定します。指定できる範囲は 60 ～ 86400 秒です。
retransmit seconds	再送信タイムアウト間隔を指定します。有効範囲は 1 ～ 60 秒です。
revalidation seconds	定期的な自動再検証タイムアウト間隔を指定します。有効範囲は 5 ～ 86400 秒です。
status-query seconds	ステータス クエリー タイムアウト間隔を指定します。有効範囲は 10 ～ 1800 秒です。

デフォルト

グローバル AAA タイムアウト間隔 : 60 秒 (1 分)
 グローバル ホールド時間タイムアウト : 180 秒 (3 分)
 グローバル再送信タイムアウト間隔 : 3 秒
 グローバル再検証タイムアウト間隔 : 36000 秒 (10 時間)
 グローバル ステータス クエリー タイムアウト間隔 : 300 秒 (5 分)
 インターフェイス タイムアウト間隔 : グローバル コンフィギュレーション値

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション
 インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
 vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイス タイマーのタイムアウト間隔値は、グローバル タイムアウト値を上書きします。EAPoUDP を設定する前に、**feature eou** コマンドを使用する必要があります。このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、グローバル AAA タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou timeout aaa 50
```

次に、インターフェイスの AAA タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou timeout aaa 60
```

次に、グローバル ホールド時間タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou timeout hold-period 480
```

次に、インターフェイスのホールド時間タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou timeout hold-period 540
```

次に、グローバル再送信タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou timeout retransmit 5
```

次に、インターフェイスの再送信タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou timeout retransmit 4
```

次に、グローバル再検証タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou timeout revalidation 34000
```

次に、インターフェイスの再検証タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou timeout revalidation 30000
```

次に、グローバル ステータス クエリー タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# eou timeout status-query 240
```

次に、インターフェイスのステータス クエリー タイムアウト間隔を変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# eou timeout status-query 270
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature eou	EAPoUDP をイネーブルにします。
eou revalidate (グローバル コンフィギュレーション)	エンドポイント デバイスの定期的な自動再検証をイネーブルにします。
show eou	EAPoUDP 情報を表示します。

eq

単一ポートを IP ポート オブジェクト グループのグループ メンバーとして指定するには、**eq** コマンドを使用します。ポート オブジェクト グループから単一のポート グループ メンバーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
[sequence-number] eq port-number
```

```
no {sequence-number | eq port-number}
```

構文の説明

<i>sequence-number</i>	(任意) このグループ メンバーのシーケンス番号。シーケンス番号は、オブジェクト グループ内でグループ メンバーの順序を保ちます。有効なシーケンス番号は 1 ～ 4294967295 です。シーケンス番号を指定しない場合、デバイスは最大シーケンス番号より 10 大きい番号を現在のオブジェクト グループに割り当てます。
<i>port-number</i>	このグループ メンバーが一致するポート番号。有効なポート番号は、0 ～ 65535 です。

デフォルト

なし

コマンド モード

IP ポート オブジェクト グループ コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

IP ポート オブジェクト グループには方向性がありません。**eq** コマンドが送信元ポートまた宛先ポートのいずれに一致するか、またインバウンドとアウトバウンドのいずれのトラフィックに適用されるかは、ACL でオブジェクト グループをどのように使用するかによって決まります。

このコマンドには、ライセンスは不要です。

例

次に、port-group-05 という名前の IP ポート オブジェクト グループを作成し、ポート 443 で送受信されたトラフィックと一致させるグループ メンバーを設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# object-group ip port port-group-05
switch(config-port-ogroup)# eq 443
```

関連コマンド

コマンド	説明
gt	IP ポート オブジェクト グループに greater-than (より大きい) グループ メンバーを指定します。
lt	IP ポート オブジェクト グループに less-than (より小さい) グループ メンバーを指定します。
neq	IP ポート オブジェクト グループに not-equal-to (等しくない) グループ メンバーを指定します。
object-group ip port	IP ポート オブジェクト グループを設定します。
range	IP ポート オブジェクト グループに port-range グループ メンバーを指定します。
show object-group	オブジェクト グループを表示します。